

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	新宿区版 GIGA スクール構想の実現に向けて、児童がタブレット端末を活用する授業を毎日設け、児童に活用させる授業を計画する。週案にタブレット端末を活用する時間を明記するなど、学校としてタブレット端末活用の推進を徹底し、機器を効果的に活用した授業作りを行う。 児童の論理的思考力を育むために身に付けるべき力などを整理し、各学年で何を指導するのか明らかにする。「愛日プログラミングタイム」を各学年に設け、プログラミング的思考を高めるための取り組みを位置付ける。また、プログラミング的思考を高めると共に、教科目標の達成を両立させる。	中間評価		最終評価	
環境作り		愛日スタンダード等を基にして、学校として同じ方向を向いた学習指導・生活指導の徹底と hyper-QU の活用等による児童理解をすすめる。自己決定の場の確保、自己肯定感をもたせる場作りなどの人間関係づくりの視点で学習環境を整えていく。 また、全教室ユニバーサルデザインを意識した教室掲示等、統一した環境作りを行う。 上記の 2 点から、児童がいつでも安心して学べる環境を学校として整える。				

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課 題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（2 月）	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析（4 月）	課 題（4 月）	改善のための取組（4 月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（2 月）
2	国語	学 平仮名や片仮名に加えて、漢字の習得も反復練習を取り入れたことで定着してきているが、正しい書き順を意識したり、字形を整えて書いたりする力が十分身に付いていない状況が見られる。文章表記では、まだ拗音や促音、助詞などの間違いも見られ、引き続き正しい文の書き方の指導が必要である。 学 話を聞く際、気持ちちがそれてしまったり、手遊びをしてしまったりする姿が多く見られる。集中して話を聞ける時間がまだ十分でないため、大事なことを落としてしまう。 学 読書を好む児童が多く、様々なジャンルの本に興味をもって読んでいる。また、絵本だけでなく、伝記や物語を読み始める等、関心・意欲が高い。	・家庭での反復練習の際も、正しい書き順で字形を整えることを意識して書くように指導する必要がある。 ・文章を書く際には、拗音や促音、助詞の使い方など意識していく必要がある。 ・大事なことを落とさずに聞いたり、話したりするためにはどんなことが必要なのか考え、定着させる必要がある。	・漢字練習を毎日行ったり、週に 1 回のミニテストで定着を確認したりする。また、タブレット端末での漢字練習も積極的に取り入れ、繰り返し練習する時間を設ける。 ・身近な出来事を題材に選び、日記を書く活動を取り入れる。まずは書くという活動に抵抗をなくすためにも、日記には出来事と自分の気持ちを取り入れるということを重点的に指導する。拗音や促音、助詞などの間違いを机間指導などで教師が確認し、その都度指導をしていく。日記以外にも 1 0 0 字程度の短文作りの機会を増やし、正しい文の書き方に気が付けるよう指導していく。 ・話を聞く際、常に話者に視線を向ける、手は動かさない、話している途中に口を挟まないなどの指導を徹底していく。また、全校朝会での校長講話や朝のスピーチ等の機会を活かして、大事なことを落とさないように話の要点をメモしながら聞く活動を継続的に取り入れる。		
	算数	学 計算処理については、繰り上がりや繰り下がりなどの理解と処理は身に付いてきている。しかし、文章題から題意を読み取り、図に表すような思考力については、個人差があるため、個々の理解度に合わせて指導を行いながら、文章題に取り組ませるようにする必要がある。 学 繰り上がり、繰り下がりの計算になり、理解力や計算速度に関し、児童の習熟度に差が出てきている。	・学習課題を把握し、既習事項を活かして解決する場合において、自らの考えを表現する際に図や表などを用いて説明できるように指導する必要がある。 ・全員共通の課題に取り組むだけではなく、自らの学習状況を把握し、すすんで学習に取り組む力を少しずつ伸ばしていく。	・計算処理の問題に多く取り組ませる反復練習だけではなく、児童が思考し、自分の考えを表現するような場を授業の中に設定する。 ・授業で学習内容の定着を確認するための問題に取り組む際は、タブレット端末を活用し、練習問題の難易度や、問題量など、児童の定着度に応じて個別対応ができるようにする。様々な問題に慣れさせるように教材を工夫する。		

3	国語	【調】 領域「書くこと」の正答率は、他の領域と比べると低い結果となっていた。 【学】 文章を書くことに苦手意識があり、時間も長く必要とする児童が多い。読み手を意識した文章を書く能力がまだ十分に身に付いていない状況である。 ワークシート・ノートにまとめた内容、学習感想などを見ても、文章の構成を考え、自分の伝えたいことを順序立てて書いたりする力がまだ十分ではない。	・書く活動を計画的に設定し、書くことへの苦手意識をなくしていく。日記なども取り入れ、自分の思いや考えをまとめる指導も行う。	・書く活動を週に一回程度宿題として出し、習慣化していくようにする。 ・自分の気持ちを入れて書くことを指導することで、出来事だけの羅列にならないようにする。		
	算数	【調】 新宿区学力定着度調査では、すべての領域で目標値を上回っていたが、文章問題には課題がある。 【学】 計算処理については、正しく計算することよりも、速く計算することを目標としている児童が多く、間違えずに計算できる児童は多くない。 ・基礎・基本が定着している児童も多いが、問題を解く際にケアレスミスをする児童が多い。 ・文章題で、自分の考えを式に表し、それを分かりやすく説明することに課題がある。 ・文章問題や応用問題になると理解に時間がかかり、個別指導を必要とする児童も多い。	・「正しく」を意識して、計算問題に取り組みせるようにする。「量」だけでなく、「質」を意識させる。 ・式を立てる際に、言葉の式で考えることで、自分が行っている計算や具体物操作が文章題の中でどのような意味をもつか考えながら、問題に取り組みめるようにする。	・授業や朝学習で計算問題を解くときには、計算の過程が明確になるように、ノートに途中式を書くようにする。 ・デジタルドリルを使い宿題で反復練習を行うことで定着を図る。 ・授業で文章問題を解く時には、問題文にラインを引き、それを基にして言葉の式を立て、計算式を立てることを指導し、積み重ねる。		
4	国語	【調】 前年度新宿区学力定着度調査では、「書くこと」領域が他の領域より目標値を下回っていた。 【学】 読書を好む傾向があり、多様なジャンルを読んでいる。基本的な知識は身に付いているが、物語文の登場人物の心情を考えたり、自分の考えを言ったり書いたりするのが苦手である。文章を書くことに苦手意識があり、時間も長く必要とする児童が多い。	・書く内容の中心を明確にすることや、内容のまとまりで段落をつくることなどを意識させて文章を構成することを指導していく。	・授業の中で書くことを意識的に取り入れるようにする。また、段落の「はじめ」「中」「終わり」を色分けして指導し、内容のまとまりが視覚的にわかるようにしていく。		
	算数	【調】 前年度新宿区学力定着度調査では、すべての領域で目標値を上回っていた。 【学】 基本的な知識は身に付いているが、テストの際に、問題の読み間違いや単位の書き忘れなどが目立つ。また、思考力・判断力・表現力については十分に身に付いているとはいえない。きちんと折れ線グラフや図形を描いたりすることができない。問題の読み間違いや単位の書き忘れが多い。	・作図に取り組む回数や時間を意図的に増やし、経験を積ませる。 ・大事なところに線を引いたり、印を付けたり、丁寧な字を書いたりすることでケアレスミスが減らせることを実感できるように指導する。	・宿題でデジタルドリルなどに繰り返し取り組み、知識・技能の習熟を図っていく。		
5	国語	【調】 前年度の新宿区学力定着度調査では「書くこと」の目標が低く、無記入の児童も見られた。 【学】 熟語の知識や、言葉の知識は身に付いているが、登場人物の心情や人物像を読み取り、感想をもつときにどう書き始めたら良いか分からず書く力が十分に身に付いているとは言えない。また、相手に伝わるように話そう、書こうという意識も十分とはいえない。	・書くことへの抵抗感があり、文章の構成を考え、読み手を意識しながら自分の考えを表す力がまだ十分ではない。 ・（話すこと、聞くことの課題を加筆）自分の考えが伝わるように話すためには、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫し話すことを指導する必要がある。	・1週間に1度、日記を書く活動を取り入れ、多様な形態で書く経験をさせることで、書くことへの抵抗感をなくし、書くことを楽しいと感じられるようにしていく。 ・読書を通して、文章構成に触れたり語彙を増やしたりし、積極的に活用することができるようにしていく。 ・文章を書く際に既習の漢字を正しく使えるように、デジタルドリルを活用して、筆順を意識して丁寧に書字できるよう指導していく。 ・日々の漢字ノートの宿題でも、既習の漢字はもちろん、新しく学習した漢字も正しく活用できるよう指導していく。 ・（話すこと、聞くことの課題に対する改善策を加筆）話す際には、相手や目的に合わせた資料を活用したり、視線や指示の仕方について意識したりすることを通して、表現の工夫をするように指導をしていく。		

	算数	調 前年度の新宿区学力定着度調査では全ての領域で目標値を上回り、特に「思考・判断・表現」の観点項目において目標値を大きく上回っていた。 学 基本的な知識は身に付いているが、単位の間違えや計算ミスが目立つ。既習事項を使って、問題解決に取り組む思考力には課題がある児童が多く、式が立ち、答えが出れば十分と考えている児童が多い。	- 問題を速く解くのではなく正確に解く意識がまだ十分ではない。 - 知識が先行しており、公式がなぜその式になるのか考えたり、説明したりする力が十分ではない。	- 問題文をよく読んでから問題に取り組んだり、見直しを行ったりすることで、正確に問題に取り組む意識をもたせるよう指導を行っていく。 - デジタルドリルに繰り返し取り組むことで、知識・技能の習熟も図っていく。 - 公式を覚えたり、立式できたりするだけではなく、なぜその公式になるのか、なぜその式になるのかを様々な視点から考え、多角的な思考ができるよう指導していく。また説明の際にはI C T機器を活用して、分かりやすく説明できる力も育てていく。		
6	国語	調前年度の新宿区学力定着度調査では、どの領域も目標値を大きく上回ったが、「文章を書くこと」においては、他の領域に比べると正答率が低い数値にあり、無回答も 20 パーセントを占めていた。 学新出漢字の練習に意欲的に取り組み、丁寧に書くことができています。一方、既習の漢字や言葉、熟語を文章の中で使おうとする意識が少ない児童が見られる。話すことについて、発表するための原稿を考えることはできるが、大勢の前で発表する場面に苦手意識がある児童が見られる状況である。	- 書くことへの抵抗がある児童はいるが、自分でテーマを設定し、出来事について詳しく内容を伝えることができる。 - 小漢字テストから、新出漢字の習得は出来ているが、既習漢字の定着に課題のある児童が多い。既習の漢字は意識して書くように声掛けをしていく必要がある。 - 発表する機会を増やしていき、大勢の前で発表する場面に少しずつ慣れていくことが必要である。	- 前年度の学力調査の結果から、書くことについては指定された長さで書くことや、段落構成を理解して書くこと、自分の意見を明確にして書くことの指導を毎日の日記(作文)や授業を通して指導していく。 - 漢字の定着には、まだ個人差があるため、授業だけでなく家庭学習も継続して課題を出していく。 - 簡単なテーマで、原稿を考え、全員が短時間で発表できる場面を設けていく。		
	算数	調前年度の新宿区学力定着度調査では、すべての領域で目標値を上回っていた。 学基本的な計算力は身に付いている。しかし、丁寧に欠け、正確さが不安定である。作図、分数や少数の計算に苦手な傾向が見られる。思考力の面では、問題解決に意欲が見られる。説明する力、自分の考えを分かりやすく表現する力が不足している。	- 練習問題などを通して、基礎基本の定着をさらに図っていく必要がある。 - 丁寧に作図をすることや、位を揃えて計算することに課題がある。 - 自分の考えを伝え合うための活動を増やしていく必要がある。	- 今後も丁寧に作図に取り組ませたり、自分の考えを言葉で表現したりする活動をさらに増やしていく。 - 早く解く力を身に付けることは大切であることを伝え、1問1問丁寧に解くことを指導していく。 - ペア学習や少人数グループでの伝え合いなどの場を設けていく。		
音楽	学	歌唱や器楽に興味をもち、楽しく演奏に取り組むことができています。主体的に思いや意図をもって表現し、実現するための技能は十分ではないが、音楽作り、鑑賞では、自分の思いをワークシートや楽譜や文章等で表現することができてきている。	- 難易度の高い課題に取り組んだとき、諦めてしまう場面がみられる。 - 音楽表現を工夫することに対して難しさを感じている児童がいる。	- 技能面では、音楽の基礎・基本がさらに定着するよう、発達段階に応じた指導の工夫をし、活動を取り入れていく。 - 自分の思いと友達の良さに気付けるよう、ペア学習やタブレット端末を使い共有する場面を多く取り入れる。		
図工	学	作品完成まで、見通しをもって取り組む意識が高まってきている。鑑賞では、自他の作品のよさを積極的に見つけて伝えることができる。絵や立体、工作に表すことに関心をもち、自分の思いを大事にしながら取り組むことができる。	題材のテーマから想像したことを絵に表す活動に苦手意識を感じる児童がいる。想像することが難しい場合と、自分の考えを絵に表すときに描き方が分からない場合がある。	- 導入時にテーマについて個人で考えた後にタブレットを活用して全体で考えを共有し、表したいことを見付けられるようにする。 - 絵に表す活動に主体的に取り組めるように、参考作品を用いて提示したり、児童の様子をプロジェクターで投影したりして、様々な方法に気付くことで活動できるようにする。		
特支	学	個別学習に、集中して取り組めるようになってきた。計算や漢字、詩の音読など、毎日繰り返し行う学習に、意欲的に取り組む児童が増えてきた。一方で、集団で、話を聞いたり、スピーチをしたりする活動やコミュニケーションを必要とする学習が苦手な児童が多い。自信がなくて、消極的になってしまう児童もいる。	- 多くの児童は、席に座って静かに話を聞くことができていますが、座ってじっとしていることが苦手な児童もいる。長時間の話になると姿勢保持が課題である。 - 話の内容を振り返る際、選択肢を提示すると選ぶことができる児童は多いが、正しく聞き取ったり、質問に答えたりすることが課題である。また、自分の気持ちを言葉で伝えることや、場に合った発言をすることにも課題がある。	- 聞くとき、話すときのルール、声のボリューム表などを示し、日常的に意識付ける。また、教員が話をする際、視覚で捉えられる資料を用いて、興味関心をもたせるようにする。 - 受容的な雰囲気をつくり情緒を安定させながら自己表現を促す。言葉で伝えられずに不適応を起こす児童には、相手の思いを受け止められるよう、必要に応じて教員が言いたいことを言語化する。場面に合った話し方はソーシャルスキルトレーニングを行い、どう伝えたらよいかを示す。		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。